

ジョン・ゾーン《コブラ》の研究：即興演奏を素材としたコラージュとゲームをめぐる考察

寺内，大輔

<https://hdl.handle.net/2324/1785418>

出版情報：Kyushu University, 2016, 博士（芸術工学）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	寺内 大輔			
論文名	ジョン・ゾーン《コブラ》の研究 —即興演奏を素材としたコラージュとゲームをめぐる考察			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	藤枝 守
	副査	九州大学	教授	矢向 正人
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	南 博文
	副査	神戸大学	名誉特任教授	若尾 裕

論文審査の結果の要旨

本論文は、アメリカのカリスマ的な実験作曲家であり、前衛的な即興演奏家でもあるジョン・ゾーンによる即興性に基づく《コブラ》を多角的な視点から解明したものである。1984年に発表されたこの作品は、それ以来、数多く上演され、大きな反響を生んだ問題作であった。ただし、通常の音楽作品のように確定した指示による楽譜は存在せず、ゾーン独自のルール設定や予測不能にみえるリアリゼーションの結果によって、作品自体の存立や即興演奏の様態の解明は、きわめて困難な作業とみなされてきた。本論文は、このような困難さに挑戦する内容となっている。とくに、ゲーム的な要素をもつ本作品における種々のルールやプレイヤーの間での関係性が生み出す流動的な即興の状況は、本論において克明に分析されている。また、「コラージュ」という視点からこの作品がもつ特質を浮き彫りにし、ゲームの状況から生成されるパフォーマンスの多様な関係性を「エコ・システム」として捉えるなど、斬新な切り口をみいだすことができる。さらに、《コブラ》に内包された「参与」の特性に着目し、即興という行為によってもたらされる社会的な文脈にも言及するとともに、「ダブル・バインド」をもたらす装置としての《コブラ》という画期的な位置づけを与えるなど、随所に独創的な見解が述べられている。

20世紀におけるジョン・ケージの《4'33"》やテリー・ライリーの《In C》とともにゾーンの《コブラ》は、その時代精神に呼応し、また、その後の音楽的な展開に大きな影響を与えた革命的な作品に数えられる。しかしながら、この作品に対する本格的な論考は決して多くないのが現状である。そのような意味において、《コブラ》を中心的なテーマに据えた本論文は、今後、ひじょうに価値の高い評価を受けるであろう。

公聴会の終了後、論文調査委員会は学位論文の審査を実施した。その結果、寺内大輔氏の本論文は、博士（芸術工学）の学位を授与するに相応しいという判断に至った。